

第147回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	現金過不足	当 座 預 金	売 掛 金
有 価 証 券	前 払 金	未 収 入 金	未 収 利 息
備 品	買 掛 金	前 受 金	未 払 利 息
所 得 税 預 り 金	引 出 金	売 上	有 価 証 券 売 却 益
受 取 手 数 料	受 取 利 息	雑 益	通 信 費
発 送 費	租 税 公 課	有 価 証 券 売 却 損	支 払 手 数 料
支 払 利 息	雑 損		

1. 決算日において、過日貸方に計上していた現金過不足 ¥ 25,000 の原因を改めて調査した結果、通信費 ¥ 8,000、受取手数料 ¥ 30,000 の記入漏れが判明した。残額の原因は不明であったので、雑益または雑損として処理する。
2. 営業用店舗にかかる固定資産税 ¥ 100,000 と店主個人の住宅にかかる固定資産税 ¥ 60,000、店主の所得税 ¥ 150,000 を現金で納付した。
3. 得意先レゴリス商店に商品 ¥ 880,000 を売り上げ、代金については注文時に同店から受け取っていた手付金 ¥ 200,000 と相殺し、残額を掛けとした。なお、得意先負担の発送費 ¥ 10,000 は現金で支払った。
4. 前期の決算において未払利息 ¥ 64,000 を計上していたので、当期首において再振替仕訳を行った。
5. 当期首に買い入れた株式会社マストボールの株式 1,000 株（取得原価：¥ 980,000）のうちの半分を、1 株につき ¥ 960 で売却し、代金は後日受け取ることにした。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	25,000	受取手数料	30,000
	通信費	8,000	雑益	3,000
2	租税公課	100,000	現金	310,000
	引出金	210,000		
3	前受金	200,000	売上	880,000
	売掛金	690,000	現金	10,000
4	未払利息	64,000	支払利息	64,000
5	未収入金	480,000	有価証券	490,000
	有価証券売却損	10,000		

・解説

1. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「過日貸方に計上していた現金過不足 ¥ 25,000」から、貸方に現金過不足 25,000 が計上されていることが分かるので、まず、**現金過不足の残高をゼロにする**ために同額を借方に計上します。

★ステップ 1・現金過不足の残高をゼロにする

(借) 現金過不足 25,000

次に、問題文に「通信費 ¥ 8,000、受取手数料 ¥ 30,000 の記入漏れが判明」とあるので、記入漏れが判明した通信費と受取手数料をそのまま計上します。

★ステップ 2・原因が判明したものを正しく処理する

(借) 現金過不足 25,000 / (貸) 受取手数料 30,000

(借) 通信費 8,000

最後に、貸借差額を雑損または雑益で処理します。

★ステップ 3・貸借差額を雑損または雑益で処理する

(借) 現金過不足 25,000 / (貸) 受取手数料 30,000

(借) 通信費 8,000 / (貸) 雑益 3,000

現金過不足の決算整理仕訳は、上記の 3 ステップにあてはめて考えると分かりやすいです。

現金過不足に関する問題は、第 110 回の間 4や第 111 回の間 4、第 115 回の間 1、第 117 回の間 1、第 123 回の間 2、第 133 回の間 4、第 135 回の間 1、第 142 回の間 5、第 150 回の間 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 資本の引き出し・租税公課に関する問題です。

固定資産税を納付した場合、営業用（事業用）にかかる 100,000 円は**租税公課**で費用処理し、店主個人にかかる 60,000 円を会社が肩代わりした場合は**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に引出金がある（資本金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**引出金で処理**します。

★解答①

(借) 租税公課 100,000 / (貸) 現金 160,000
(借) 引出金 60,000

また、店主個人にかかる所得税を会社が肩代わりした場合は、**資本の引き出し**として処理します。

★解答②

(借) 引出金 150,000 / (貸) 現金 150,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

資本の引き出しに関する問題は、第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

租税公課に関する問題は、第 106 回の問 4や第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 150 回の問 5でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

3. 売上取引・前受金に関する問題です。

本問は【前受金に関する仕訳】【売掛金に関する仕訳】【発送費に関する仕訳】の 3 つに分けて考えましょう。

■前受金に関する仕訳

問題文の「代金については注文時に同店から受け取っていた手付金 ¥ 200,000 と相殺し」から、以前に手付金を受け取っていたことがわかります。

☆参考・手付金受取時の仕訳

(借) 現金など 200,000 / (貸) 前受金 200,000

今回はこの手付金を相殺しているなので、貸方に計上していた前受金を売上に振り替えます。

★①前受金に関する仕訳

(借) 前受金 200,000 / (貸) 売上 200,000

■売掛金に関する仕訳

残額の 680,000 円 (=880,000 円 - 200,000 円) は売掛金で処理しましょう。

★②売掛金に関する仕訳

(借) 売掛金 680,000 / (貸) 売上 680,000

■発送費に関する仕訳

発送費を支払った場合、「当店負担」か「得意先負担」かで処理が異なります。

当店負担の場合は、発送費などの勘定で費用処理します。一方、得意先負担の場合は立て替えて支払った形になるので、売掛金または立替金で処理します。

本問は、問題文に「得意先負担の発送費」とあるので売掛金または立替金で処理しますが、問題で列挙されている勘定科目の中に売掛金がある（立替金がない）ので、**売掛金で処理する**と判断します。

★③発送費に関する仕訳

(借) 売掛金 10,000 / (貸) 現金 10,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

4. 再振替仕訳に関する問題です。

再振替仕訳は**前期末に切った決算整理仕訳の逆仕訳**になるので、まずは前期末の仕訳を考えましょう。

問題文の「**前期の決算において未払利息 ¥ 64,000 を計上していた**」から、前期末に利息を見越計上していたことが分かります。

☆参考・前期末の仕訳

(借) 支払利息 64,000 / (貸) 未払利息 64,000

あとは、貸借をひっくり返して解答仕訳を導き出すだけです。

★解答・再振替仕訳

(借) 未払利息 64,000 / (貸) 支払利息 64,000

再振替仕訳に関する問題は、第 118 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。どちらも非常に簡単な問題です。

5. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しますが、売却したのは**当期首に買入れた 1,000 株のうちの半分 (500 株)**です。うっかり 1,000 株で計算しないように気をつけましょう。

・帳簿価額：980,000 円 ÷ 2 = 490,000 円

・売却価額：500 株 × @960 円 = 480,000 円

・貸借差額：490,000 円 - 480,000 円 = **10,000 円**（帳簿価額 > 売却価額 → 売却損）

なお、売却代金はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の問 5や第 110 回の問 1、第 116 回の問 5、第 118 回の問 1、第 123 回の問 4、第 126 回の問 4、第 131 回の問 1、第 142 回の問 4でも出題されているので、あわせてご確認ください。